

秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会 第5回会議 県南地区部会（概要）

1 日 時

令和4年10月11日（火） 13：30～16：00

2 場 所

横手高等学校 会議室

3 出席者

○秋田県高等学校の再編整備構想検討委員会委員 7名

○事務局（高校教育課） 7名

4 協 議

委員からの主な意見

- ・ 全国の会議に参加して、どこの県でも統廃合している学校が多く、その決め方も各県で異なることを知った。再編整備計画を地域の人たちと一緒に考えるというのは、秋田県の凄く良いところだと知ることができた。ある県では、県で決めてしまってから知ったという方が多く、意見を求められてもいない状況があった。
- ・ 適正規模の基準は見直すべきだと考える。
- ・ 統合等の再編整備は、あくまでも子どもの選択肢を残すためである。そのためには、小さい学校をたくさん残していくのか、ある程度の人数を確保し、教育効果を高めた上で統合を進めていくのか、のどちらかを選ぶしかない。どちらがいいかというと、高校の場合はある程度の人数がいた方が、部活動も含めて様々な活動ができるし経験もできるので良いのではないかと考えている。
- ・ 生徒には、教育を受ける場の選択肢を増やしてあげたい。いろいろな地区に学校が残せるようにしてあげたい。
- ・ 今後の状況を考えると、学級規模として、進学校は5学級程度以上、中心的な専門校は4学級程度以上が望ましいのではないと思う。
- ・ 2学級以下になってしまった場合、特例は認めるとしても、募集停止の対象にするという明確な部分はあってもいいのではないと思う。
- ・ 地域校化させ、地域に学校を残したときに、地域校に通おうかなと思う子どもは何人くらいいるのだろうか。残したとしても厳しい現状があるのではないか。
- ・ 中高一貫校に関しては魅力化を図るのはもちろんだが、それ以上にアピールやPRが

足りないのではないか。